

彦根市行政評価委員会 会議録要旨

第 11 回 彦根市行政評価委員会		
日 時	平成 25 年 3 月 4 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分	
場 所	湖東合同庁舎市役所会議室	
出席者	委 員	別紙のとおり
	市職員	企画振興部長企画課職員（事務局）
欠 席 委 員	なし	

[開会]

[委員会の成立について]

委員 8 人全員が出席。過半数の出席があったため、彦根市行政評価委員会設置要綱第 6 条第 3 項の規定により会議は成立。

[資料の説明]

事務局より本日の資料の説明

[前々回評価、前回評価（総括評価も含む）の確認]

事務局の示したとおり確認

[今年度の総括]

[① 会議の進め方について]

○委員長

昨年度の第 11 回委員会で行いました総括につきましては、事前に委員の皆さんに議題に関して照会を行いました。本年度は議題に沿い自由に意見を出していただきたいと思います。①会議の進め方についてです。

今年度の委員会におきましては、まず、事前質問をいただき、事務局より回答いただいた後、事前評価を行い、委員会当日の質疑等により評価を修正いただき、総括評価を含

めて、次の委員会で確定していました。この流れにつきましてご意見いただきたいと思  
います。

○企画振興部長

おそらく、昨年と違うのは、委員会で総括評価を行っていくところで、委員会で色々  
意見を言っていたで、事務局で文案を作って、次回委員会でそれを決定していただく  
というところが決定的に違うところ。去年のようなやり方で、委員会の場で総合評価を決  
めていただくのがいいのか、もしくは委員会での議論を踏まえて次回に皆さんで確定して  
いくのが良いのかが、比較対象となりうる点だと思う。

○委員長

前年度は、委員会の場で総合的な評価を行っていました。今年度は事務局にお任せし、  
次回委員会で議論を行っていました。そこが変わっていますので、皆さんで議論できれば。

○事務局

もう一点だけ。昨年度との違いは、今、部長から言っていたのが一番大きな点で  
すが、細かな変更点としましては、昨年度は皆さんから出していただく事前評価と、事前  
質問に対する回答がリンクしていなかったのですが、今年度は明確に回答を出した上で皆  
さんから事前評価をいただきました。

○委員長

私としては、今年度のほうが良かったと思う。事前質問の回答をいただいた上で、それ  
を見ながら評価ができたので、より丁寧に評価できたと思います。ただ、事務局のほうで  
それが大変だったかは分からないので、総合的にその点も含めて判断いただければ。総括  
については、その場でやってしまうというよりも、ワンクッションおいて評価するほうが、  
より、意見を集約できると思います。ただ、まとめ方によりますが。基本的には今年度の  
やり方が良かったのではと思っています。事務局としては、作業量としてはどうですか。

○事務局

量としては変わらないと思います。昨年も、事前質問・回答、事前評価と項目は変わり  
ませんので。時間の調整が大変ですが。

○企画振興部長

ついこの間、委員会をしたのに2週間しかないとかありますので。

○事務局

ただ、今年度は昨年度と違いまして、海外からお客さんをお迎えするとか、そういった

大きな事業がありませんでしたので、概ね当初の予定通り進めたかなとは思っています。

○委員

質問の回答をいただいて、それによって評価するというのは非常に大事だなと思いました。それはやりやすかったと思います。

○副委員長

これまでは、施策評価調書と事務事業評価表は、委員会の前にその分をもらっていたが、今回は、第1回目に全部もらったんですね。僕は先にいただいた方がありがたいです。昨年度質問しなかったものを、ちょっと時間が空いたときに次の資料を見る時間があった方が良かったと思います。事務局も、1回で出した方が良かったかもしれないね。楽ということはないけど、10回資料出すのより1回で出した方が。

○委員

総括評価ですが、まとめていただいたものを、次回委員会でその場で決めていくのは中々難しかったかなと。総括評価を次の委員会で、これでよろしいですかと聞かれる承認の仕方が、私も悪かったですが議論をしているのではない感じ。このように出ていますけど、皆さんどうですかという感じではなくて。こうだったっけと思うことがあれば、その場で言えばいいんですけど、こういうことも重要という話も前回出たよねとか。それがただ、形式的に、はい、了解しました。というように流れてしまうかなというくらいを少し感じます。それは委員それぞれの責任で、私もちゃんと言えばよかったんですけど。

○委員長

事務局の責任ではないですけども、総括評価を書く欄が非常に狭くて、コンパクトにやらないと、それでなければ、各委員の意見を書く欄を狭くして総括評価の欄を広くしないと。スペースをとっていただいた方が良いのではないかという気がしましたけれども。やりかたそのものは良いのですが。

○委員

個人の評価ではなくて、総括評価なので個人の意見を羅列するものではないと思います。

○事務局

後ほど、報告書のところでも議論があると思いますが、報告書を出さなければなりませんので、皆さんの意見について載せることは可能ですが、それと総括評価もあわせて載せていくのは少し厳しいかなと思います。

○委員

委員会について、昨年度と少しやり方が違ってはいますが、それに対して、市のそれぞれの所管の方はどうお感じになられているのか、そういったことも聞いてみたいです。

○事務局

特に聞いてはいないです。作業の内容としては去年とあまり変わっていないので。

○企画振興部長

資料を作りこむ時間が全部一遍になったことぐらいですね。

○委員

時々、時間がないということで、質問を端折って次にいくということもありましたので、十分に議論の時間を取っていくことが必要ではないかなということを感じました。

○委員

いつもながら、評価の点数をつけるのが難しかったんですが、今回は質問の回答をいただいてからなので、評価はしやすかったんですけども、実際は議論をさせてもらって、説明いただいてからの方がつけやすいのではないかなと感じるんですけども。事前の点数は全く書かずに。事前に資料をいただいて、実際にディスカッションしてからの方がつけやすいかなと思います。委員会で修正ありますかと聞かれても、時間が短いものですから、中々レスポンスできないこともありますので。

○副委員長

本来はそうなんでしょうね。色々説明を聞いて、議論をして、それから10にしてたけど15だとか。次の回にそれを出したら良いわけですよ。それは可能ですよね。

○事務局

事前評価をしないということですよ。委員会中にできないということであれば、例えば委員会終了後に、1週間後までに確定評価を出してくれとお願いして、事務局でも総括評価を考えて、皆さんにお送りするといったことなら可能です。

○企画振興部長

それか、事前評価をした上で、5点だった人が10点や15点に変えるということ、まとめてレスポンスしてもらえばいい。総括評価をレスポンスしてもらうのと同じタイミングで。

○委員

今言われた後の方がやりやすいですよ。前者ならば、点数はつけないし、次の回でも資料を見なければならぬし、うろうろする感じがして、事前にある程度しておいた方が

良い。

○委員長

私もそう思います。事前評価をつけていた方が質問もしやすいので。とりあえず評価はつけておいて、事後に修正すれば。一定の期間内に出していただいて、次の委員会で確定していく。

○委員

先ほども言いましたが、中々短い時間で修正と言われても難しいので、その部分が改善されれば。

○委員

事前にある程度評価しないと、自分の論点がずれてしまって、総合評価がしにくいというのがあったので、そういう意味では事前評価をしたほうが。評価のコメントは難しかったです。事前評価をして、後で修正というのがやりやすいと思います。

○副委員長

事前評価で書く欄が沢山あるが、1枚に集約できませんかね。

○事務局

事前評価と事前質問は提出時期が違うので、分けないといけません。書式については検討できると思います。

## [② 資料全般について]

○委員長

今年度から、全ての「施策評価調書」、「事務事業評価表」を第1回委員会においていただきました。委員会当日には、総括評価の事務局案を記載した「前回評価」、委員会当日に評価する施策の「事前評価」、委員に記載いただいた「評価理由一覧」、「事前質問、回答一覧」が配布されていますが、過不足や体裁なども含めまして、ご意見等ありましたら、よろしく願います。特に最初は、評価理由一覧について、全部書いていましたが、途中であまり書かなくなったと。それについても願います。

○委員

今言われた、評価チェック表の理由について、これを書いて、総括評価を書いて、評価の着目した事務事業を探して、意見も書いていたら、本当に2時間では終わらなくて、3時間ぐらいかかっていた。ここにいるよりも家にいる方が長く、トータルしたら何時間労

働かと思うときもあって、それが本当に必要なのか皆さんで統一してもらって、こういうときは書きましようとか。

○事務局

こちらについては、何回目かの委員会で委員長から意見を頂き、5点とか1点とか極端な評価の時には、書きましようとか、また、その理由が明確で書くことがあれば書きましようと言われてまして、事務局としてはそれで良いのかなと。べつに15点でも20点でも言いたいことがあれば、書いていただいて結構かと思えます。それで、当日来る所管課には伝わりますので。

○委員

後ろに書く意見と、評価理由の意見も入れ込んでいただければ、あえて幾つもいらないので。書類はまとめていただいて。

○委員長

昨年度までは、特に評価が低いものについてはその場でご意見を聞いていたと重います。今年は何も聞いていませんが、今年度はそれを文書化してもらったと。確かにこれを書いているのは大変な作業で。

○委員

施策の評価なので、事業の評価ではない。だけれども、施策を評価しようと思ったら事業を見なければいけない。この事業があって、この事業がこうだから施策がこう、というときには、有効性とか妥当性とかの理由に書いて、総括評価にはなるべく施策全般のことを書くようにしていました。私の中では住み分けがありました。

○委員

私もそうです。

○委員長

要は、このチェック表に書くようにするか、その場で言うかですね。

○委員

この委員会の表は、事前に担当課には行かないんですね。

○事務局

行かないです。事前評価表の締め切りは委員会の2日前程度ですので、時間的余裕はない。

○委員

やっぱり、低い点がついたら何でやねんと思われるので、その方々に、この中で議論しているだけでなく、文字で残すのはいいと思う。それを委員がするのか、事務局がするのか。

○事務局

当日来た次長は、資料を配るので分かりますので、見て確認されている。

○委員

そう、実際に見て、文字で残るのは、議論だけよりもいいと思う。

○委員長

フィードバックの問題ですね。ここでの議論をどうフィードバックするのかという。評価するまでにフィードバックするのか。評価した後にフィードバックするのか。事前にフィードバックするならば、こちらが書類を作成する期間を早めていかなければなりませんよね。

○事務局

時期を詰め込むにしても、今年度も割りとギリギリの日程でした。例えば事前質問を皆さんからもらい、各課に発送し、大体1週間後には皆さんに送っている。それから1週間ほどで事前質問をいただく。そうすると、事前評価の時期を早めると他の作業も早めなければならないので、きついかなど。

○委員

委員会によっては、資料がぶ厚いところと薄いところがあるが、均等にはできませんか。集まっているところは、見るのも大変ですし。関連性があるので、どうしてもこうなっていますのでしょうけれど。

○委員

今、現在、最終的に皆さんが点数を変更した最新の評価は、各担当課にはいつ頃届いているんですか。

○事務局

報告書ができてからです。

○委員

その場合に、個々の評価理由は出てこないですよ。

○事務局

そちらは、当日渡しておりますので伝わっています。

○企画振興部長

今日のご意見は、今、ここでこうしますとかは言えないものなので、今日のご意見を踏まえて、次年度以降に反映していきます。

○委員

資料を最初に一気にいただいて良かったと思いますが、最初に出さなければならないということで、ちょっとお時間がなかったのかなと思えるような資料が、今年は多かった。数字が間違えていたり、記載されていなかったり。早い時期に出すのが厳しかったのかなと懸念したんですけど。

○事務局

最初に各課に資料を作るよう依頼したのは、割と長い期間があったのかなとは思っています。今年度につきましては、システムの変更等もありまして、第1回の委員会も少し遅めにしたんです。7月に入っていましたので、その間に作業頂きましたので、そんなに目茶苦茶厳しいとは思っていません。この点につきましては申し訳ございません。

○企画振興部長

昨年度までは、旧の総合計画の流れで行って行っていましたので、今年度は少し違うということもあるかもしれません。それを踏まえたうえで作業しなければならないのですが。

○事務局

特に昨年度は最終年ですので、不備があっても最終年のみとなります。今回はすべて1からですので、少し混乱があったかなと思います。

○委員

それぞれの指標について、課が考えられたあと、決裁を得たものなのか、それとも各課で、勝手に決めて、それがそのまま出てくるのか。

○事務局

事務事業は各課で決めるが、決裁は次長。部署によっては部長まで取っているかもしれませんが。施策については、総合計画で決まっているので動かさない。委員会の中で皆さんから、この指標は現実的ではないとか、努力しても指標の数値が動くものではないとか言われたものについては、事務事業については来年度修正できると思います。

○委員

指標の変更に柔軟性があるのならば、次年度、意見とその反映としてやり取りができる。何年も同じ指摘ばかりしていても、発展性がないので。



○事務局

前回の評価で言いますと、下水道の施策で、農業集落排水の指標は変え難いですが、下水道の徴収率の指標は変えられる余地があるということです。

[③ 委員の年間作業行程、作業量等について]

○委員長

今年度から、総合計画が新しくなり、評価施策が 58 施策から 51 施策と 7 施策少なくなった関係で、実質 9 回の委員会で、1 回あたり 5~6 施策の評価を行いました。また、委員会開催にあたりましては、事前質問から概ね 1 週間程度で回答を受け、委員会の 2 日程度前に事前評価を提出するという日程でしたが、この作業行程、作業期間、作業量等について、その妥当性も含めてご議論いただきたいと思います。総合計画が変わって、施策の数が減りましたが、事務事業の数が施策によって多かったり、少なかったりがありますが、各委員会ごとに平均化はできないものでしょうか。

○事務局

今年度の委員会の組み方で、一番基本としたのは、例年そうでしたが教育委員会施策を、先に持っていくこと。そして、各次長が施策の説明をしますので、所属を集めること。そして総合計画上、関連している施策を集めることでした。そうすると会議録を作ったときに、1 回の会議で流れが出るかなと考えました。あと、今年度は施策数が減りましたので、1 回の委員会で最高 6 施策にさせていただきました。ですので、施策にぶら下がっている事務事業の多い少ないは特に考慮しませんでした。

○委員

病院と上水道は独自に評価を持っていますよね。上水道の方は非常に細かく評価されたものをいただいて、病院はもらってないですが、細かく評価されていると聞いていて、すでにきちんと緻密に評価をされている上で、私たちが評価をする、行政評価としてどういう視点で評価したら良いのかなど。

○事務局

病院と水道は別の枠組みで評価を行っていますが、委員の皆さんには総合計画の進捗管理をお願いしていますので、総合計画にある水道の施策、病院は直接総合計画には載ってないですが、福祉の施策の中にありますので、そこを評価いただければと思います。

○委員長

病院や水道は、こちらの意見を事業に反映いただいているんですか。

○企画振興部長

こう言ったから、こうしますといったダイレクトなものではないですが、意見は承って、反映するところは反映するといったものです。

○委員

昨年度よりは、委員会の時間が早く終わるようになりました。昨年度は5時ギリギリ。今年は4時ぐらいで終わるようになりました。

○企画振興部長

施策の数も少なくなりましたので。

○委員長

1回の評価施策は来年度もこれぐらいが良いですか。ピックアップするということも考えられますが。総べてやって行政評価だという意見が大半ですが。では、来年度も全部やるということで。回数を増やすことは可能ですか。1回増やすと、1回の施策が少なくなります。

○事務局

1回増やしますと、3月にしわ寄せが来て報告書の編集作業が厳しくなりますし、夏・秋ぐらいの日程が詰まり、委員さんもスケジュールが厳しくなりますが。

○企画振興部長

開始を早くすれば、後には響きませんが。

○委員長

前倒して行けば、委員会を増やせるわけですね。それならば少し楽になりますが。

○企画振興部長

1回程度であれば、回数を増やすことも十分可能だと思います。

○委員

個人的には、委員会の回数が増えても、1回の施策が減るほうが、議論の時間も取れると思います。

○委員

先ほどの、十分議論ができなかったというお話も、少し余裕ができるかもしれませんね。

[④ 施策の評価項目、評価の内容について]

○委員長

現在、「有効性」、「必要性」、「効率性」、「妥当性」について、20、15、5、1点で評価を行い、議論の内容などから、次回委員会において点数、総括評価を含めて確定を行っていました。この評価の項目、点数、文章での総括評価などに関しまして、何かご意見等ありましたら、よろしくお願いします。

○委員

委員会の評価ということで、高い、やや高い、やや低い、低いの4段階に振り分けますよね。これは必ず必要な作業になりますか。やや高いの枠の中で数字上、12.5～15.6までありまして、ここでの議論もそうですし、かなりの開きになるので、数字で出した方が適正に評価したニュアンスが伝わるかなと思います。これがやや高いのくくりになると議論の幅も狭くなるのかなと。イメージすると、皆さんが15つけている中で、お二人が5をつけると。そうすると結構議論があったのかなと思われそうですが、やや高いとなってしまふ。逆に全員15をつけている中で1人20をつけてもやや高いとなってしまふ。この4段階の評価が必要な理由があれば仕方がないことですが、これを外せるのならば、外したほうが議論の中身が見えてくるのではないかなと思います。

○事務局

こちらの評価項目については、従前は5、4、3、2、1としていたものを20、15、5、1に変えたとか、次の議題でもある外部評価報告書でも◎、○、△、×にしていますので、議論いただいた結果ですので、議論の結果の見せ方については、委員会で決めていただけることなのかなと思っています。確定しているものではありません。

○委員長

これは、各年度の第1回委員会で決定しているものですね。

○副委員長

これは、市の各課の評価と我々の評価の差が大きいときに、議論したとかそういうことはなかったですか。

○委員長

それはないですね。内部評価は甘いので。

○事務局

基本的に行政の内部評価については、委員会としては勘案しないとなっていたと思います。独自で評価していこうという流れがあったように思います。

## [⑤ 外部結果報告書について]

### ○委員長

外部評価結果報告書のサンプルについて、事務局から資料が出ていますのでご覧ください。今年度の外部評価結果につきましては、第1回委員会において了承をいただいているものです。昨年度との相違点につきましては、「総括評価」を加えること、「主な事前質問とその回答」としていたものを、委員会当日のやり取りなどを拡充して記載することとし、「主な質問とその回答」としたことです。

こちらにつきまして、これから事務局で作業いただきますが、ご意見等あれば伺います。

### ○事務局

今、委員長からお話がありましたが、主な意見と回答につきましては、昨年までは事前質問とその回答の主なものについて記載していたものですが、今年度は、委員会との質疑で事前質問とリンクしたり、発展的に何度も質疑が重なったものについて、細い線で、連続的につながるよう記載しているものです。そのほか、施策の内容が分かりやすい質疑であったりする単独の事前質疑や委員会当日の質疑については、太い線で囲っています。

### ○委員長

最初のほうに出ておりましたけれども、委員会の総括評価についてと会議での意見の欄がありますけれども、総括評価を見させていただくと、もう少しスペースをとっていただくと。ただしここで幅をとると、質問と回答が狭くなるなどバランスの問題もありますが。

### ○事務局

委員会当日のやり取りの内容や、事前にいただいた、質問や事前評価の内容によって、施策間で報告内容のボリュームにかなり差が出てしまいます。ですので、各項目の幅は施策ごとに変わっています。

### ○委員

細かいことになるかもしれませんが、委員会の総括評価で、表現として、「評価できます。」とはっきりと書き、評価できたということが分かりやすいのですが、中には「…いただきたい」というものもあり、我々が評価したのか、意見の部分なのか分かり難い。もう少しはっきりとした形で総括評価をした上で、意見というものを記載したらよい。総括評価として、どのような語尾でくくっていくのか、皆さんのご意見を伺いたい。

### ○委員

各委員会で確定させた総括評価を載せるんですよね。

○事務局

そうです。毎回、皆さんにご確認いただいたものについて、そのまま掲載いたします。

○委員

ですので、総括評価ができてきたときに、そのこのところをもう少し時間を掛けて議論が必要。議論をした上で確定させればいい。なんとなく、みんな、はい良いよみたいになってしまう。

○委員

この報告書で、委員会での総括評価を小さくして、意見の欄を充実させるとか、総括評価と意見をひっくるめて全部掲載するとか、文字が沢山あったほうが、読みやすいのか読み難いのか受け取るほうとしてはどうなのかとも思いますが。

○企画振興部長

総括評価に関しては、端的に評価でき難い部分が沢山あるので、色々なご意見を踏まえながら書くというのが、もともとのスタンスだったかなと思っています。

○委員

総括評価と意見の枠を外して一緒にしても良いかもしれない。

○委員

意見になると、箇条書きでいくつか書いているように、要するに委員の個人なんですよ。そうではなくて委員会としての総括ということに、私は意味があると思っています、それは別にしたほうが良いと思います。

○委員

ということは、従来のこの形が良いと。

○委員

できるだけ、私はシンプルのほうが良いかなと。

○副委員長

来年度は、総括評価を次の委員会のおきに出しますよね。それを例えば30分、前の委員会の総括について話し合う時間を取れますよね。

○事務局

それは取れます。可能です。

○企画振興部長

事務として、総括評価の原案をメールなりでお示した上で、当日読んでいただいた上で来てもらって、議論していただいたほうが良いのかなとも思います。次の回でいきなり見て、それで意見してもらおう方がいいですね。大分間が空く場合もありますし。

#### ○委員

人によって時間軸が違うので中々決まらないこともあるかと思えます。考えていて、変えようかどうしようかと思っているときに、じゃあ次へとなるときもありますので、そのほうがありがたいです。意見については、例えば、会議の中で、相反する意見が出てくるときもあると思うんです。そういう時は、両論という形で書いていただけるのか。その上で評価というものは委員会で決めますということで、バランス取れていると思うんですが。ですから意見は箇条書きで、要点だけ書いていくのが良いと思います。非常にポイントだなと思うのが、評点を1、5、15、20として、メリハリをつけたということですけれども。例えば、全部15だと何も意見することもないですけど、そこにいくつ5が入ったかで、会議の本意が分かりますので、平均点よりも偏差といいますか、ばらつきみたいなものが表現できると、同じ15点でも5点が混ざったものとは、全然ディスカッションした内容というか、雰囲気も違ってくると思いますのでね。

#### ○委員

例えば、同じ15点でも5点が混じっているものはアンダーラインを引くとか、見ただ目で分かるようにしておくことも一つかなと思います。

#### ○委員

評価と意見ということについての記述は、見る側からすると明確な違いがあるというのが望ましいとは思いますが、テーマによっては非常に難しいものがあるって、評価がはっきり出るものと、出ないものがあるって、点数についてもメリハリをつけるということで、5と15があって、その間で非常に悩んだ部分があるって、結果的にこの点数がどんな意味を持つのかなと考えたときに、先ほどから意見がありますように、決して平均するものではないようなところがあります。もちろん評価委員会なので、評価をして点数化することで一つの目安が出てくるんですけども、それぞれの立場で代表して受け止めているもののすべてではないと思ったときには、明確に意見が集約できるところは、はっきり評価という形で記載されるのは当然だけれども、そうでないところでは少数意見がきちっと埋められていて、相手に分かるように意見のところを示されると。そうでないと、多分、ここに全てを評価します、できましたと載せるのは、中々そうできるものもあれば、できない

ものもあると、限りなく何かそのように思うので、評価委員会としての総合評価であるとの意識を持った書き方をするという事は積極的にするものの、そうでない場合の、複数の意見が出たというときの、外部の見たときに分かるように記載していただくことなのかなと思いました。

#### ○事務局

総括評価の文面そのものに、これはとつても評価が難しいものだったと、委員の中でも見解が分かれたということを経験のところに書き込むということですか。

#### ○委員

そこまで具体的に書かなくても、今も多分そう書かれていると思うんですが、これをすごく大きく書くということは難しい。なので、意見のところの充実というか、意見のところをより慎重に、色々な意見を吸い上げるというか、例えば文化的な部分であったり、数値では反映し難いものなどを出していくような方向で。

#### ○事務局

皆さんの年間のご議論を聞いていて、これから作業を進めるにあたり、報告書の意見については、委員会当日のやり取りや、事前質問などに書かれています意見などを拾い集めて記載するのですが、施策によっては、質疑などはあるのですが、意見となるものが見つからないものもあります。ですから、場合によっては、主な意見がない施策も出てくると思います。

#### ○委員長

全てを数量化するのは難しいと思うんです。ですので、数字だけ載せるのは抵抗感がありまして、それで文章化した方が、数量化できないものについてはより良いのではないかなと感じています。

#### ○委員

数量化しても、効率性が求められるものではないなと思うような施策もあったと思うので、効率性が低くなくても良くやっておられるというものもあったので、数値だけではなくて評価を文章で書かれるというのは必要ではないかなと思います。先ほど委員がおっしゃっていた、評価がやや高いというのが、12.5でもやや高い。15.6でもやや高いとなっているというのが、その文言が必要なのかなというところですよ。数字だけで良いのではないかという気もしますね。去年と今年はこの高いとかいうところに◎とか記号を入れていたんですけども、次年度は、この部分は削除しても良いように思います。点

数の評価と、文章化された総合評価を見れば、見る人は判断できるのではないかという気がしますが。

○委員

委員会の評価として、高いとかやや高いといったといった言葉遣いと、点数がちょっとずれているのではないかということは、多分、15点をつけると、しかし平均が15点より低い場合、誰かが、15点より低い点数をつけているのではないかということなので、これをやや高と言ってしまうのかという感覚なんだと思うんですよ。誰かが5点をつけていると。しかも2人かもしれない。それでもやや高いとなってしまう。これに違和感があると思うんですよ。

○委員

点数をつけるときに、非対称に20、15、5、1と設定したのにもかかわらず、平均点を出してしまうと、高い、低い、○、△とつけているところでズレが出てくる。委員会の評価で○、×を点数とリンクしないで、委員会としてこれは○にしましょう、△にしましょうと決めていくものであれば、見やすいのかなとも思うんですが。必ずしも必要がないわけではないと思うんです。効率性で△としていると、問題があるんだなと分かりますし。

○委員長

今ので、報告書にある図の中に○、△を入れることはできませんか。

○事務局

どうでしょう。書式をよく見てみないと分かりませんが。

○委員

エクセルですよ。○とかを入れるのは結構大変ですよ。

○企画振興部長

では、逆にこの図は必要ですか。数字と記号があればいいということであれば、図の必要性はどうかと思ひまして。ただ、視覚的にバランス感が出るということであれば図は残したほうが良いとも思ひますし。

○委員長

そうですね。視覚に訴えるということでこの図を作ったと思ひますし。

○委員

◎と○を、高い、やや高いと、そこが合うかと言われたときに、○って人によって高い



と感じたり、普通と感じたり。

○企画振興部長

報告書の最初のほうで、どの数字なら高く、それが◎だとか説明されています。

○委員

我々の議論としては、15か20かの間での議論があって、より高い方に行くか、あるいはそれよりも普通よりやや高いかなという議論よりも、やや高いとやや低いの間ぐらいのところに、おそらく焦点が当たっているという意味では、これに△がつくと相当、それに対する説明なり、評価の観点がないとだめなのかなというイメージがあって、◎や○ではなく△が出てきたときに、かなり違いが分かるのではないかなと思うんですけど。

○事務局

これは正確な数字ではないですけど、妥当性については結構△が多い。妥当性で◎は非常に少なかった印象があります。

○委員

施策の評価を行っているので、もし必要性に△がつくと大問題。この施策は必要ないのかということになってしまう。だから妥当性が効率性に△がつくのは、まあ、当たり前ですよ。必要性は◎にならないと。

○委員長

委員会の評価を残すのであれば、効率性が△である施策に対して、効率性は求めていないよというようなことであれば、総括評価のところなどでちらっとでも、そういうことを書いておかないとだめだと思いますね。この施策については、決して効率性は求めていませんよと。そのことが分かる表記、親切さが必要かなと。やっぱり、その施策毎のポイントがあると思いますので、そのポイントにあったような総括評価、評価の仕方をしないとという気がします。

○委員

最初に僕が投げかけたのから、少し戻ってしまうかもしれないですけども、総括評価での表現で、例えば、何々を進めていただきたいとしたのが、我々が評価をした内容だったとしたときに、進めていない問題点があるから進めて欲しいんだということなのか、一定評価をした中でさらにがんばってねというようなところなのかとしたところで、進めていただきたいと評価した捉え方と、推進が必要ですといったときに、必要性がある中で、できていないからやってくれとしているのか、単に意見として必要ですよねとしているの

かというところにおいては、かなり意見と評価というところは、メリハリを、評価をするといったときのメリハリをつけるという意味が、○か×をつけるというメリハリではなくて、こちらが伝えたメッセージとして明らかにしておくべきかなということであろうと、少しそのあたりが曖昧なまま、もちろん評価できないということも大いにあることは十分に理解していますが、それでも行政側にも評価できないものを数値化して出してもらっている我々としては、何か、それに対して数字であり、我々の意見として評価、良いか悪いか、あるいはがんばっていただいているということならば、そのままがんばっていただいてもらうということで、何らかのメッセージを出さないと、我々の責任というか、説明責任がつかないと思うので、そのあたりでのメリハリという意味では、評価といったときに使う表現としていくつかのパターンというか、統一がなされていたほうが、見ていただくときには分かるのかなというのが、僕には感じるもので、良い所はここで、悪い所はここでと総括評価をした上で、妥当性が低いならば、ここで議論があつたんだなと分かっていただけのかなと思ったりもしますので。

#### ○事務局

今年度は、もうこの時期なので中々対応するのは難しいですが、来年度は、皆さんからご意見が出ましたとおり、実際所管の事務職員が入って来る前に皆さんが議論する時間が非常に重要となります。

#### [⑥ その他、行政評価委員会全般]

##### ○委員長

その他、何かご意見等があればどうぞ。

##### ○副委員長

委員会のときに各部署から出てきていただいて、はじめに説明していただいているのは、非常にありがたいのですが、部署によっては非常に簡潔にされる場所もありますが、長いところもある。少なくとも委員の方は資料に目を通してきているので、特に問題点とか、言いたいところを強調して、絞ってお話いただくとありがたい。

##### ○委員長

冒頭で、簡潔にお願いしますと言っていますが、かなり長いところと短いところがありますので、できるだけ要点のみで説明していただけるとありがたいです。

[閉会]

○事務局

本日の会議はこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

委員皆様方には、本日は長時間にわたり、熱心にご審議を賜りましてありがとうございました。

今年度の行政評価委員会につきましては、これで終了させていただきます。

市長に代わりまして、企画振興部長のほうから一言お礼をさせていただきます。

○企画振興部長

市長の代わりとは大変僭越ではございますが、今年度の彦根市行政評価委員会の閉会にあたりまして、一言ごあいさつとお礼を申し上げます。

昨年7月から都合ここのまで11回、皆様には本当にご熱心に議論いただきまして本当にどうもありがとうございます。まずもって多大の感謝とお礼を申し上げます。

先ほど委員長の方からも手厳しいお言葉をいただきましたが、自己評価は甘いものだというのですが、本市においても、行財政改革、効率的・効果的な行政運営を含めて、色々と自分たちでチェックしながら、進めているところでございますけれども、やはり事業を自分たちで進めていくという立場上、市民の皆さんにとって必要なものを行っているという自負もございますので、どうしても、一つの方向に走ってしまうという部分もあると思います。そういったところで大学の先生など学識経験を持たれている方、民間の手法をご存知の方、そして市民の目線から、様々な観点からご指摘いただきまして、本当にためになるといいますか、自分たちの行う事務の中で非常に重要なご指摘をいただいていると思います。また、私自身も彦根市の職員でありながら、国から来ているという立場もございまして。また、この行政評価委員会を所管している部にいるということもありますので、皆様のご意見をいただきながら、少なくとも自分の部内では、こういったご指摘をいただいている。これについてはどう考えますかといった話は、フィードバックさせていただきながら進めてきていると認識しております。こういった機会は非常に大切だと考えていまして、市議会とは別のチェック機関という意味で、施策を全般的に押しなべて見ていただきながら評価いただくというのが、市としても大変ありがたいことですし重要だと思っております。これを機会に、また、引き続きですね、来年度以降も事務事業評価、施策評価については行っていきますとともに、行政評価委員会についても、また来年も開催させ

いただきたいと思いますので、またご協力をお願いします。

はなはだ、簡単ではございますけれども、これを持ちまして私からのお礼とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

なお、先ほど、大橋委員長からもありましたとおり、外部評価結果報告書につきましては、事務局において作業を進めさせていただきます。案が作成できましたら、皆様にメールや郵送で送らせていただき、ご意見等を伺った上で完成させたいと考えています。

それでは、これを持ちまして、第11回彦根市行政評価委員会、平成24年度行政評価委員会を終わらせていただきます。1年間どうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

会議録の確定	
委員長署名	大橋松行

平成 24 年度 第11回彦根市行政評価委員会 出席委員

(50 音順)

氏 名	備 考
赤木 和代 (あかぎ かずよ)	淡海生涯カレッジ彦根校オブザーバー
池上 松夫 (いけがみ まつお)	(元)彦根市行政改革委員会委員
大橋 松行 (おおはし まつゆき)	滋賀県立大学 教授
嶋津 茂昭 (しまづ しげあき)	(元)彦根市総合発展計画審議会委員
西川 実佐子 (にしかわ みさこ)	NPO 法人ひとまち政策研究所 理事長
真鍋 晶子 (まなべ あきこ)	滋賀大学 教授
森下 あおい (もりした あおい)	滋賀県立大学 准教授
森 雄二郎 (もり ゆうじろう)	聖泉大学 講師